

地域教育
情報紙(25年度)
第3号

風と花

平成25年7月25日発行
＜担当＞富士・東部教育事務所
地域教育支援スタッフ
秋山俊一・高野 修
小林統也・杉田 眞

富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、地域教育の「横の連携」と「縦の接続」を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。年に8回程度の発行を予定しています。

◆ [南都留・北都留 地域教育推進連絡協議会 総会開催]

＜南都留地域＞ -子どもたちの教育は地域全体で担う-

6月12日(水)、富士ふれあいセンター大研修室を会場として、平成25年度南都留地域教育推進連絡協議会総会・講演会が開催されました。総会の冒頭では、新会長の中野訓和氏(谷村第一小学校校長)より、教育を取り巻く環境が一段と厳しい諸情勢の中、地域や諸団体のより一層の連携が必要であるとのお話がありました。次いで、昨年度・今年度の事業及び決算・予算についての議事が行われました。



講演会では、エベレスト登頂女性の世界最高齢者の登山家、渡辺玉枝氏から『富士山のふもとに育ち暮らす』と題し、エベレストの自然の驚異、スケールの大きさ、素晴らしさ等について、エベレスト登頂の時のビデオを見ながら、大変興味深い内容のお話を伺うことができました。

渡辺さんは、平成14年には63歳でエベレスト登頂(ネパール側から)に成功し、女性最高齢の登頂記録を更新。平成24年には再びエベレストに登頂(チベット側から)し、自身の持つ最高齢記録を更新しました。その元気の秘訣は、ジョギングや筋トレではなく、毎日欠かさないといい全て手作業の畑仕事であり、これが、山登りのための自然な鍛錬になっているとのことでした。

もちろんこれまでの登山の経験や蓄積があるからこそですが、普段の生活の延長線上にエベレストもあり、どんなに高い山だからといっても身構えない、そんな渡辺さんの姿勢も数々の山の登頂に成功した理由の一つだと感じました。

＜北都留地域＞ -未来へのかけはし 北都留教育の発展-

7月12日(金)、上野原市文化ホールを会場として、平成25年度北都留地域教育推進連絡協議会定期総会・講演会が開催されました。

総会に先立ち、歓迎アトラクションでは、「Grandioso～いい音を いい音楽を～」を目標に日々練習に励んでいる、上野原市立上野原西中学校の吹奏楽部が、心を一つにした素晴らしい演奏を披露してくれ、会場の参加者を魅了していました。



総会では、船木直美副会長(小菅村長)の開会の言葉の後、会長の江口英雄氏(上野原市長)より、様々な活動において子どもを中心に据えた「連携」をますます強めていくことが必要であるとのお話がありました。次いで、昨年度・今年度の事業及び決算・予算について議事が行われ、本年度も「望ましい教育環境づくり」の推進に向けての確認がなされました。

講演会では、親業インストラクターの藤森晴江氏が『親の気持ちに寄り添いながら～チームの活動を通して～』と題し、「親・家庭の大切さ」について大変興味深い内容の講演をしてくださりました。講演の最後では、「親の気持ちを受け止め、その時その時の気持ちに寄り添いながら、安心することができる親が一人でも多くなるように」これからも、「家庭の大切さ」を伝える活動を続けていきたいというお話がありました。

◆【明日の風 アスリート実技講習会】 大月市民総合体育館

6月22日（土）、大月市民総合体育館で「第2回 アスリート実技講習会」が開かれました。今回は、大月市スポーツ少年団・大月アスリートクラブと北都留地域教育推進連絡協議会（明日の風）の共催で実施されました。

この日は、すこやか健康スポーツクラブ・大月市陸上競技協会・大月市スポーツ少年団・大月市アスリートクラブ・明日の風アスリートクラブ、一般の支援者などの多くのスタッフの方々が、子どもたちにスポーツの楽しさを教えてくださいました。当日は、小学生108名・中学生26名、保護者やスタッフを含め全体で180名を超える参加者がありました。子どもたちは、親子一緒のエアロビクスやスポーツ吹き矢など、普段あまり経験できないスポーツも楽しんでいました。

子どもたちは、様々なスポーツを体験し、自分のなかに新たな可能性も発見することができたのではないかと思います。これからはいろいろなスポーツに親しんでほしいと願っています。

実技講習会の最後には、「スポーツチャレンジ優勝者」への表彰も行われました。

◆「地域と学校をつなぐ 花いっぱい運動」 富士吉田市立明見中学校

ありふれた活動のように思える「花いっぱい運動」ですが、明見中学校の場合は少し様子が違います。校内の環境美化にとどまらず、地域の保育園、老人施設、授産所などに生徒がプランターに植えた花とともに、健康、笑顔、感謝などの気持ちを一緒にプレゼントしようというものです。花の苗を植えた経験のない生徒がほとんどでしたが、小さな花の命の重さを手に感じながら暑い日差しの中で作業を行ったそうです。7月2日（火）、環境美化委員と生徒会役員が中心となって各施設に向かいました。



プレゼントを受け取った各施設の方々から喜びの声が直接返され、生徒たちは、満足感を味わっていました。もらった人たちもプレゼントした生徒たちも花のような笑顔がいっぱいの活動となりました。

◆【ふじざくら支援学校でオープンスクール開催】

6月22日（土）、ふじざくら支援学校でオープンスクールが行われました。校舎内に足を踏み入ると、子どもたちの明るい元気な“おはようございます”のあいさつが聞こえてきました。

ふじざくら支援学校は、平成8年4月山梨県立富士ふれあいの村の中に開校された肢体不自由児、知的障害児、重複障害児のための県下初めての知肢併置特別支援学校で、小学部、中学部、高等部の3学部があります。

担当の先生より日程説明があり、その後、2グループに分かれての校内見学ツアーがありました。2校時と3校時に授業の様子を参観することができました。子どもたちが学習に集中し、楽しそうに取り組んでいました。整備された環境のなか、よく準備された教材と熱心な指導者によって個に応じた指導が行われていました。

◆【第1回南都留教育相談ネットワーク会議】 南都留合同庁舎

7月10日（水）、富士・東部教育事務所管内の教育相談に携わる「教育相談ネットワーク会議」が、南都留合同庁舎で開催されました。まず、事務局から会議の背景と趣旨、事業内容、活動等について説明があり、次いで、都留こすもす教室より「不登校の現状と訪問指導について」、都留市教育研修センター教育相談員より「都留市教育研修センター相談部の活動報告」、都留児童相談所児童虐待対策幹より「児童虐待相談の現状と地域との関係機関との連携」について報告され、研究協議がもたれました。具体的な事例研究を通して、それぞれの関わり方や抱えている課題の解決に向けた意見交換や情報交換が行われ、地域で協力して子どもたちのためにネットワークをつくっていくことの必要性・重要性を確認する有意義な会議となりました。

